

令和3年度第1回四條畷市総合戦略協議会 会議録

| | |
|------|--|
| 日 時 | 令和4年3月24日（木）10:00～11:30 |
| 場 所 | 市役所本館 3階 委員会室 |
| 出席者 | 石関委員(会長)、上村一彦委員(副会長)、小西委員、中川委員、上村達也委員、島田委員、中野委員、相良委員 |
| 欠席者 | 石井委員 |
| 事務局 | 西尾総合政策部長兼魅力創造室長、笹田田原支所長兼田原地域スマートシティ担当参事、森本魅力創造室課長、藤戸魅力創造室課長代理、川崎魅力創造室主任 |
| 議 題 | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>次第1 国の動向と本市の今後の対応について</p> <p>次第2 KPIの達成状況について</p> <p>次第3 人口ビジョンの改訂について</p> <p>次第4 その他</p> <p>3 閉会</p> |
| 配布資料 | <p>① 次第</p> <p>② 座席表</p> <p>③ 資料1 国の動向と四條畷市の対応</p> <p>④ 資料2-1 総合戦略の全体像</p> <p>⑤ 資料2-2 KPI 達成状況</p> <p>⑥ 資料3-1 地方創生推進交付金「society5タイプ」の概要</p> <p>⑦ 資料3-2 企業版ふるさと納税</p> |

(文中敬称略)

| | |
|------|---|
| 事務局 | <p>1 開 会</p> <p>それでは、定刻となりました。皆様方には、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の出席委員8名、欠席の委員が1名でございます。四條畷市総合戦略協議会規則第三条第2項の規定に基づき、委員の過半数にご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>まず初めに、事務局側の職員を紹介させていただきます。</p> <p>総合政策部長兼魅力創造室長の西尾でございます。</p> <p>魅力創造室課長の森本でございます。</p> <p>魅力創造室課長代理の藤戸でございます。</p> <p>本日の案件の関係職員として、田原支所長兼田原地域スマートシティ担当参事の笹田でございます。</p> <p>最後に私、魅力創造室主任の川崎でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは石関会長、よろしくお願いいいたします。</p> |
| 石関会長 | <p>それでは、ただいまから令和3年度第1回四條畷市総合戦略協議会を開会します。</p> <p>事務局、本日の資料の確認をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>本日の資料については、事前に送付している、資料1 国の動向と四條畷市の対応、資料2-1 総合戦略の全体像、資料2-2平成30年度策定分 K P I 達成状況、資料3-1 四條畷市人口ビジョン（たたき台）、資料3-2人口の将来展望と、本日机にお配りしております、次第、座席表、委員名簿です。</p> <p>資料が揃っていない方、いらっしゃいますか。</p> <p>それでは、以降の進行を会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいいたします。</p> |
| 石関会長 | <p>2 議 事</p> <p>それでは、次第に入る前に、本日は、初めて会議にご出席される委員の方がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>と思います。</p> <p>まず、四條畷市総合戦略協議会条例第4条第3項に規定する産業経済団体の関係者として、四條畷青年会議所 理事長の上村達也様でございます。</p> <p>次に、条例第4条第4項に規定する労働に従事する者として、島田様でございます。</p> <p>次に、条例第4条第5項に規定する市民として、相良様でございます。</p> <p>また、本日は委員にご就任されてから初めて会議にご出席される委員の方もいらっしゃいますので、ご紹介させていただきたいと思います。</p> <p>(自己紹介 石関会長、上村一彦副会長、小西委員、中野委員、中川委員)</p> |
| 石 関 会 長 | <p>どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めます。まず、次第1 国の動向と本市の今後の対応について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事 務 局 | <p>それでは、資料1「国の動向と四條畷市の対応」に沿って、ご説明させていただきます。</p> <p>1 ページ目下段をご覧ください。全国的な課題である人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することをめざし、国において2014年12月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の施策をいいます。</p> <p>「まち・ひと・しごと創生法」に基づく取組みとして、人口動態の分析と将来展望を示す「人口ビジョン」、めざすべき未来像や基本目標、それに紐づく政策や施策・事業、目標値などを示す「総合戦略」がございます。</p> <p>次のページ上段をご覧ください。国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び第2期「まち・ひと・しごと総合戦略」が策定されています。「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、2060年に1億人程度の人口を確保するための中長期展望が示され、「まち・ひと・しごと総合戦略」では、将来にわ</p> |

たって「活力ある地域社会」の実現、「東京圏への一極集中」の是正を趣旨とした基本目標や施策の方向性、目標などが示されました。

また、「まち・ひと・しごと創生法」では、全国の各自治体においても「地方人口ビジョン」及び「地方版まち・ひと・しごと総合戦略」を策定することが努力義務とされていることから、大阪府では、「大阪府人口ビジョン」及び第2期「大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されています。

下段をご覧ください。本市においても、平成27年10月に、「四條畷市人口ビジョン」及び「四條畷市総合戦略」を策定し、その後「四條畷市総合戦略」については、平成30年9月に改訂を行ったところでございます。

次のページ上段をご覧ください。

本市の対応といたしまして、まず、総合戦略に掲げるKPI（重要業績評価指標）の進捗を年に1回確認しております。こちらに関しましては、この後の議題2で詳しくご説明させていただきます。

また、人口ビジョンの策定から一定期間経過していることや、総合戦略の計画期間が令和4年度をもって終了となることなどから、令和4年度中に人口ビジョン・総合戦略ともに改訂を行う予定でございます。

こちらに関しましては、本日の議題3におきまして、まずは人口ビジョンの改訂にかかるご説明をさせていただきます。

下段をご覧ください。

最後に、地方創生関連交付金の活用についてご紹介させていただきます。

地方創生、総合戦略に掲げる施策等の推進にあたり、国からさまざまな交付金が用意されており、本市においてもそれらを活用しております。

令和3年度の活用状況といたしまして、まず、地方創生推進交付金を活用し、本市東部に位置する田原地域において、自動運転車を起点とした地域主体のまちづくり事業を実施いたしました。

こちらについては後ほど田原支所長の笹田よりご説明させていただきます。

次のページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金でございます。こちらは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や、影響を受けた市民や事業者の支援など

| | |
|--------------|---|
| <p>笹田支所長</p> | <p>の事業に活用できる交付金です。</p> <p>令和3年度は、市民1人につき5,000円、18歳以下の子どもには10,000円の商品券を配布する「なわて みんなで頑張ろう商品券」事業や、500円でPCR検査を受けることができる「ワンコインPCR検査会場設置」事業など、17事業に充当いたしました。</p> <p>令和4年度は、令和3年度からの繰越分が配分される予定であり、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に関する事業の財源として活用してまいります。</p> <p>また、資料にはないのですが令和3年に創設されましたデジタル田園都市国家構想推進交付金に対し、行政窓口のキャッシュレス化推進事業について申請を行い、先日採択いただいたところでございます。こちらについても笹田より説明させていただきます。</p> <p>以上、事務局より、地方創生に関する国の動向と本市の対応につきまして、ご説明させていただきました。</p> <p>田原支所長より地方創生推進交付金と、デジタル田園都市国家構想推進交付金について、追加でご説明させていただきます。</p> <p>おはようございます。田原支所の笹田でございます。私どもは、田原地域、四條畷の東部地域の方でさまざまな実証実験を行っております。</p> <p>最初に、自動運転の関係につきましては、令和3年度に自動運転のデモンストレーションという形で有人での実証実験を行いました。その中で、手動により公道を走行した場合、ゆっくりしたカートで走行したことについて、まずご報告させていただきます。</p> <p>158人の市民の方に試乗いただきました方法は時速20キロ未満の自動走行ができる車利用し、手動走行させていただいております。ご乗車いただいた方からは、地域の方から高い好評をいただきました。地域の移動手段の一つとして皆さんの合意をいただいたところでございます。</p> <p>それを踏まえまして、令和4年度につきましては、グリーンホール田原から、ちょうど田原地域の真ん中にあるサンパルコ田原（田原台センター）という、アカカベ薬局さんなどがあるところまでの間の自動運転の実証実験を予定しております。</p> <p>これが一つ、スマートシティに関する内容として計画させてい</p> |
|--------------|---|

| | |
|-------|--|
| | <p>ただいております。こちらについては、地方創生推進交付金を活用したなかで、実施させていただくのが、まず一点ございます。</p> <p>2点目は、デジタル田園都市国家構想推進交付金に関するものでございます。</p> <p>あわせましてキャッシュレスに関する内容のご説明です。現在田原支所では、窓口業務のキャッシュレス化を実装しております。</p> <p>支所では、キャッシュレス化につきましては、多様なキャッシュレスがご利用いただけるよう、QRコード決済、クレジットカードや交通系の電子マネー、そういうものが使える行政窓口運営をさせていただいております。</p> <p>こちらにつきましても非常に好評をいただいていることから、令和4年度にデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用し、4年度中に市民課と税務課も一緒にキャッシュレス化を推進していこうということで、市民の方、ご利用される方皆さんの利便性の向上をめざして、計画させていただいております。</p> <p>相良委員は田原地域から来ていただいているので、地域の声なども聴いていただけているかと思えます。もしよかったですらご感想をいただけたらありがたいと思っているのですが、よろしいですか。</p> |
| 相良委員 | <p>まだあまり声は聴けていなくて、ただ利用された方からは「便利だ」ということで、特に若い世代や働いていらっしゃる世代の方からは概ね好評のご意見はお伺いしております。</p> |
| 笹田支所長 | <p>ありがとうございます。引き続き、行政窓口のキャッシュレス化につきましては市全体として取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>以上で報告を終わります。</p> |
| 石関会長 | <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただいまの説明に関して、他の委員の方、ご意見等はございませんでしょうか。</p> |
| 島田委員 | <p>自動運転車について今日初めて知ったのですが、これは将来的に市民が使えるようになるということですか。</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>笹田支所長</p> | <p>はい。今後、高齢社会を迎えるにあたって、免許を返納される方などが増えてくると思っています。</p> <p>その中で、田原地域はもともと山間部を切り拓いた山の中に宅地造成をしていることから、高低差が非常に大きいので、ご高齢の方や小さなお子様がいらっしゃる方が、図書館などがあるグリーンホール田原と、商業施設が大体2キロくらい離れていますので、その間を自動運転で市民の方が使えるような形をめざして、実証実験を4年度にさせていただこうと思っております。</p> |
| <p>島田委員</p> | <p>ありがとうございます。凄く素敵な取組みだと思います。</p> |
| <p>石関会長</p> | <p>他に、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、本件についてはこれで終了します。</p> <p>続いて、次第2 KPIの達成状況について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>それではまず、資料2-1をご覧ください。こちらは、四條畷市総合戦略の中から、「総合戦略の全体像」のページを抜き出したものでございます。</p> <p>現在の「四條畷市総合戦略」では、基本目標として、「親子がいきいき暮らせるまち」、「働きたい」を応援するまち、「もっと知りたい、ずっと住みたいまち」を掲げ、その下に政策とKPI（重要業績評価指標）を設定しております。</p> <p>それでは、資料2-2をご覧ください。A3横長の資料でございます。</p> <p>一番左の列から、基本目標、政策、KPIと並んでございます。そこから、各年度の実績値が並んでおりまして、今回ご報告するのは令和2年度の実績値でございます。令和2年度実績値から3つ右の列に目標値（令和4年度）の欄がございますので、この値と見比べながらご覧いただければと思います。</p> <p>まず、基本目標「親子がいきいき暮らせるまち」においては、子育て家庭の支援、質の高い教育の推進、の2つの政策に紐づくKPIを設定しており、すべての項目で前年度に比べて前進または維持という結果となりました。</p> <p>特に結果が良かったものといしまして、政策の2つめ「質の高い教育の推進」の中にある、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと思う児童・生徒の</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>割合」が、令和4年度の目標を大きく上回って達成しています。</p> <p>次に、基本目標「働きたい」を応援するまちについては、3項目ともこれまでの累計値を示すものとなっており、創業支援に基づく新規起業数、事業者向けセミナー開催回数の2つについては、新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施が困難だったことから、令和2年度の実績は0となっております。商店街空き店舗活用件数については、令和元年度に実施した地域事業者育成事業の参加者から1件の新規出店がありました。</p> <p>最後に、基本目標「もっと知りたい、ずっと住みたいまち」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、シティプロモーションサイトのアクセス数とサテライトイベント参加者数は前年度に比べ後退いたしました。</p> <p>一方、20歳代から40歳代で「住み続けたい」及び「市内で他に移りたい」と答えた割合は令和4年度の目標値を上回る結果となりました。市民意識調査では、市に住むことを他の人に薦めたいかという項目が低い状態であり、定住意欲だけではなく推奨意欲の向上もめざしていきたいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>はい、ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありましたKPIの達成状況につきまして、委員の皆さまからご意見等ございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、本件についてはこれで終了させていただきます。</p> <p>続いて、次第3 人口ビジョンの改訂について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事 務 局 | <p>議題1でもご紹介しましたとおり、本市では平成27年に人口ビジョンと総合戦略を策定し、総合戦略のみ平成30年に改訂を行ってまいりました。</p> <p>人口ビジョンの策定後、一定期間が経過し、国立社会保障・人口問題研究所による新たな推計が公表されたり、国の長期ビジョンが改訂されるなどの動きが生じていること、また、平成30年度に改訂した総合戦略の計画期間が令和4年度までであることから、令和4年度にかけてこれら2つの改訂を行う予定としております。改訂にあたっては、本協議会の委員の皆さまからご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろ</p> |

しくお願いいたします。

それでは、人口ビジョンについて、改訂案のたたき台をお示しさせていただきます。説明が少々長くなりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、資料3-1をご覧ください。

表紙をめくっていただきまして、もくじがございます。この人口ビジョンは、第1章 はじめに、第2章 現状分析、第3章 人口の将来推計と分析、第4章 めざすべき将来の方向、第5章 人口の将来展望 の全5章で構成しております。

右側の1ページ 第1章 はじめに 1 人口ビジョンの位置づけと改訂の趣旨 では、先ほど冒頭にご説明させていただきました趣旨を記載しております。2 対象期間 では、令和32年(2050年)までを対象期間とする旨を書いております。

次のページにお進みください。

2ページからの第2章 現状分析 では、各種統計データを用いて本市の人口動態を分析しております。データが多くございますので、主なものについて抜粋してご紹介させていただきます。

まず、総人口の推移でございますが、市制施行後、昭和50年にかけて急増した後、微減傾向が続いておりましたが、平成2年の田原台地区の入居開始により増加傾向に転じました。その後、平成22年の57,554人でピークを迎え、現在は減少傾向にあります。

3ページ 年齢3区分人口の推移 につきましては、まず、15歳～64歳の生産年齢人口は平成7年をピークに減少を続けており、15歳以上の年少人口も近年は減少傾向にあります。一方、65歳以上の老年人口は急激に増加を続けています。

4ページの下段から5ページにかけては、人口ピラミッドの推移をお示ししています。平成2年時点では第1次ベビーブームの団塊世代、第2次ベビーブームの段階ジュニア世代が現役世代であり、「ピラミッド型」に近い人口構成となっております。令和2年、令和32年と進むにつれて、団塊世代、団塊ジュニア世代が高齢化していくことに伴い、高齢者が多く若年層が少ない「つぼ型」の人口構成に変化していくこととなります。

次に、8ページにお進みください。出生数、死亡数に基づく自然動態についてでございます。まず、上段の出生数・死亡数の推移につきましては、出生数が減少、死亡数が増加の傾向にあり、

平成23年には死亡数が出生数を上回る、いわゆる「自然減」の傾向となっています。

次に、下段の合計特殊出生率の推移でございます。合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子どもの人数であり、本市では平成初期から緩やかに減少が続いています。最新のデータである平成25～29年は前回より若干改善し、1.43となっています。

続いて、9ページをご覧ください。転入者数、転出者数に基づく社会動態についてでございます。まず、上段の転入者数・転出者数の推移につきましては、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の状態が続いております。近年は転出者数が転入者数を上回っている数「転出超過数」が抑えられつつあり、平成30年と令和元年は転入者数が転出者数を上回る「転入超過」を達成しました。その後、再び転出超過に転じています。

次に、下段の年齢5歳階級別転入出超過数をご覧ください。平成28年と令和3年について、年齢を5歳ごとに区分し、グラフが上に伸びていれば転入超過、下に伸びていれば転出超過を表すグラフとなっています。本市においては、特に20～24歳の転出超過が著しく、令和3年は120人の転出超過となっています。一方、0～4歳や35～39歳は転入超過の傾向となっており、子育て世帯が流入しているものと考えられます。

続いて、12ページにお進みください。転入元・転出先の住所地についての分析でございます。

まず、12ページの図につきましては、四條畷市に転入された方がもともと住んでいた場所について、大阪府内の状況をまとめたものでございます。北河内地域から646人、大阪市から321人と、近隣の地域からの転入が多くなっており、北河内地域のなかでは大東市からの転入が最も多い結果となっています。

次に、13ページの図につきましては、四條畷市から転出された方の転出先について、大阪府内の状況をまとめたものでございます。先ほどの転入元の住所地と同様、北河内地域へ701人、大阪市へ347人と、近隣地域への転出が多くみられ、北河内地域の中では大東市へ転出が最も多くなっています。

このように、本市における人口移動は、近隣市町村間の転入・転出が多い傾向がみられます。

続いて、14ページと15ページをご覧ください。先ほどの転入元、転出先の住所地について、大阪府以外の地域の状況をまと

めたものでございます。

14ページの転入元の住所地では、近畿他府県から345人、関東から112人が転入しており、15ページの転出先の住所地では、近畿他府県に362人、関東に164人が転出しています。近畿他府県のなかでも、兵庫県や奈良県といった近隣県への転入・転出が多くみられます。

16ページにお進みください。ここから19ページまでは、本市の産業に関するデータを掲載しております。まず、16ページ上段の従業者数と事業所数につきましては、ともに平成24年ごろまで減少傾向にありましたが、それ以降は増加に転じております。

次に、16ページ下段の就業人口のグラフをご覧ください、こちらは、四條畷市を従業地とする15歳以上の就業人口の推移を表したものです。第1次産業は減少傾向にありましたが、平成27年には増加しております。第2次産業は減少傾向が続いており、第3次産業は横ばいで推移しています。

続いて、20ページにお進みください。改訂前の現行人口ビジョンにおいて定めている目標などについて、実績を確認しております。現行人口ビジョンの該当箇所は、資料3-2でお配りしておりますので、適宜ご覧いただければと思います。

それでは、冊子20ページの(1)目標の表をご覧ください。短期目標・中期目標・長期目標それぞれの将来展望に対する現状を一番右の列に記載しております。

短期目標では、令和2年時点で社会動態において転出入の均衡をめざすとしていたところ、平成30年から令和2年の転入転出超過数を合計すると、6人の転入超過であり、概ね達成しています。

中期目標では、合計特殊出生率について、年次を令和2年、令和12年、令和22年に刻んで目標設定しています。令和2年までに1.6程度をめざすとしていましたが、直近の統計調査(平成25～29年)では1.43となっており、達成が困難であることが伺えます。

長期目標を設定した令和32年にはまだ到達していませんが、令和2年時点では総人口が55,177人、生産年齢人口割合は59.6%となっています。

次に、21ページ(2)人口推計と将来展望をご覧ください。

総人口と高齢化率について、改訂前の人口ビジョンには、国立

社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計と、人口移動の状況や出生率が改善したと仮定した場合の将来展望を掲載しておりました。それぞれについて、一番下の行に現状を記載しています。

総人口は、平成27年に56,075人、令和2年に55,177人でした。いずれの年も、改訂前の人口ビジョンで示した将来展望や社人研推計を下回る人口となっており、想定よりも人口減少が進んでいることがわかります。

高齢化率（65歳以上の人口比率）は、平成27年に25.7%、令和2年に27.7%でした。平成27年は将来展望や社人研推計で想定していた高齢化率よりも低い値でしたが、令和2年は社人研推計よりも低いものの、将来展望よりは高い値となっています。

以上が、第2章 現状分析 の内容でございます。

次に、22ページへお進みください。ここからは第3章 人口の将来推計と分析 でございます。この章では、社人研の平成30年推計に基づき、令和32（2050）年までの本市の人口推計をお示ししております。

23ページ上段のグラフをご覧ください。総人口と年齢3区分人口の推計でございます。本市の総人口は、令和2年時点で55,177人の実績であったところ、10年後の令和12年には5万人を切り、30年後の令和32年には36,886人にまで減少すると推計されています。

年齢3区分別人口を見ると、15～64歳の生産年齢人口及び0～14歳の年少人口は今後も減少を続ける見込みです。65歳以上の老年人口は令和22年まで増加を続け、その後は微減傾向に移ると推計されています。

次に、23ページ下段のグラフをご覧ください。年齢3区分別人口割合の推計でございます。

0～14歳の年少人口の割合は徐々に減少していき、令和27年には10%を切ると推計されています。

15～64歳の生産年齢人口の割合も減少が続き、令和32年には50%を切ると推計されています。

老年人口の割合は増加が続き、令和27年には40%を超える見込みです。

続いて、24ページの（3）人口減少の段階 をご覧ください。人口減少が進むにつれ、表にあります第1段階から第3段階へ順

に進んでいくと言われていています。第1段階では、老年人口が増加し、年少人口、生産年齢人口が減少していきます。第2段階では、老年人口の増加が止まり、維持の段階に移ります。第3段階まで進むと、老年人口も、年少人口や生産年齢人口と同様、減少していくことになります。

下段のグラフは、本市の平成27年の人口を100として各年の人口を指数化したものでございます。こちらにありますとおり、本市の老年人口は令和22年にかけて増加していく見込みであり、ここまでは第1段階とみられます。令和22年に老年人口がピークを迎えた後は、第2段階へと移行していくと考えられます。

続いて、25ページをご覧ください。第4章 めざすべき将来の方向 でございます。

第2章の現状分析、第3章の将来推計を踏まえ、本市が今後めざすべき方向について、3つ設定したものでございます。

まず、(1) 自然減の抑制 でございます。本市では、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向が続いており、年少人口や生産年齢人口も減少傾向にあります。また、合計特殊出生率についても緩やかに減少しています。

これを踏まえ、めざすべき将来の方向の一つ目として、「子どもを産み、育てる希望が叶うまちへ」を設定いたしました。

次に、(2) 転出の抑制 でございます。

本市では、転出者数が転入者数を上回る社会減の状態が続いていますが、近年は転出超過数が抑えられつつあります。年齢階級別の人口移動では、20～24歳の転出超過が著しい傾向にあります。

これを踏まえ、めざすべき将来の方向の2つ目として、「いつまでも安心して暮らせるまちへ」を設定いたしました。

最後に、(3) 転入の促進 でございます。

年齢階級別の人口移動では、0～4歳や30～34歳の子育て世帯は転入超過となっております。

これを踏まえ、めざすべき将来の方向の3つ目として、「学び、働き、住み続けたいと思える魅力的なまちへ」を設定いたしました。

なお、これらの方向性に基づく具体的な政策等に関しましては、今後改訂予定の四條畷市総合戦略において検討してまいります。

す。

26ページにお進みください。第5章 人口の将来展望 でございます。

第4章で設定しためざすべき将来の方向を踏まえ、本市が今後実現したい人口動態の将来展望についてお示ししております。本市では、令和32年(2050年)時点で、人口規模 45,000人程度、生産年齢人口比率 概ね50%以上 をめざしてまいりたいと考えております。

この将来展望を達成するために、合計特殊出生率は令和12年までに1.68、令和22年までに1.93をめざしてまいります。

また、社会動態に関しましては、令和12年から令和32年までの各年において、子育て世代とその子ども世代の転入増・転出減、20歳代の若者の転出減、それ以外の世代の転入出の均衡をめざしてまいります。

次に、27ページをご覧ください。第3章でお示した社人研による推計をもとに、先ほど26ページで設定した将来展望に係る合計特殊出生率と人口移動の改善が実現した場合の、本市の独自推計を行いました。

下段の総人口のグラフをご覧ください。マーカーが●の折れ線が社人研推計、マーカーが◆の折れ線が本市の独自推計でございます。社人研推計では、総人口は令和32年に36,886人まで減少すると推計されています。合計特殊出生率と人口移動の状況が改善された場合の独自推計では、令和32年時点で社人研推計より約8,000人多い45,043人と推計されています。

本市では、第4章で設定しためざすべき将来の方向をもとに、地方創生に資する政策・施策を推進することにより、この独自推計でお示した人口動態をめざしてまいりたいと考えております。

28ページ以降につきましては、年齢3区分人口について、独自推計の結果をまとめたものでございますので、後ほどご覧いただければと思います。

長くなりましたが、人口ビジョンの改訂について、説明は以上でございます。改訂にあたりまして、委員皆様から、ご質問・ご意見等いただきましたらと思います。よろしく願いいたします。

| | |
|---------|---|
| 石 関 会 長 | ただいま事務局から説明のありました、人口ビジョンの改訂につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。 |
| 上 村 委 員 | 先ほどいただいた「総合戦略の全体像」に書いてある長期目標の部分で51,000人と書いていただいているのを、45,000人に変えるということでしょうか。 |
| 事 務 局 | <p>おっしゃるとおり、前回の総合戦略を立てたときには、平成27年に策定した人口ビジョンをもとにしております。</p> <p>前回27年度の人口ビジョンのときに掲げていた長期目標が今おっしゃっていただいた51,000人で、そこから時間が経過しておりますし、総合戦略を次に改訂するにあたって、より現実に対応したデータを用いた方がいいのではないかという意見がありまして、今回、人口ビジョンを改めさせていただきたいと考えております。それにあたりまして、本市が設定する目標として、45,000人をめざしたいと考えている状況でございます。</p> |
| 石 関 会 長 | 他に、ございますでしょうか。 |
| 相 良 委 員 | 質問なのですが、20歳から24歳の方の転出超過が著しいという結果が出ているのですけれども、この原因調査みたいなことは、されたかされる予定はありますか。 |
| 事 務 局 | <p>具体的に、個別の転出の状況は長期にわたっての調査はできていないのですけれども、前段でご説明させていただいた、例えば12ページから15ページの移動のなかでも、出ていらっしゃる方は同じような傾向を示されています。20歳から24歳ということなので、おそらく就職の関連で転出される方がやはり多いのではないかと分析をしております。</p> <p>そのうえで、就職がきっかけと言いながらも、それほど遠くないところに出ていらっしゃる場所が見えてきますので、なんとかそのあたりの方々に、通える範囲であれば本市に長く住んでいただくというような施策ができないかと考えているところでございます。</p> |
| 小 西 委 員 | 今の件で、他の市でも同じような状況ですね。おっしゃるように、学校を卒業されて就職されて、自宅から通うには時間がか |

| | |
|---------|--|
| | <p>かるので、極力、仕事場に近いところで一旦一人住まいをしたいとか。親離れというのか子離れというのか、そういう時期に値するようです。</p> <p>やはり大阪市内とか、関東圏もそうなのでしょうけれども、例えば結婚して世帯を持って子育てに入ると、大阪市内の窮屈なところよりも、郊外の子育てにゆとりがあるというか、自然が多いところを選んで、また戻ってくるという状況が見て取れるのです。</p> <p>そういう状況があるので、先ほど9ページのグラフが出ていましたが、35歳前後と小さい5歳未満の子どもを連れた人が戻ってくるという状況があるのではないかと思います。Uターンじゃないですけども、子育てのときにどこに戻ろうか、例えば自分が生まれ育った四條畷に戻ろうか、他のエリアに行くのか、というときに、ぜひ地元に戻っていただくような施策というか政策というか、環境を整備すれば、一定程度は期待できるのではないかと思います。</p> <p>ここ2年間コロナで、我々もそうだったのですけれども、すべての賑わいづくりや魅力をアップするような取組みが制限されてきました。逆にこの段階になってきたら、感染対策を取っていか前に進んでいくかということを探索しながら、早く次の一手を踏み出さないと、それぞれ皆同じ状況の中で策を練っておられると思うので、傍観者ではなくて先導して動いていくことが必要かと思えます。</p> <p>我々も、地域の魅力向上のためにお手伝いできることはどんどんやっていきたいと考えておりますので、よろしく願います。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ありがとうございます。他にどなたかおられないでしょうか。</p> |
| 上村副会長 | <p>昔、高度成長期の時代に公団住宅がもてはやされて、抽選で公団住宅を希望されて入居された時代がありました。その世代が過ぎた後、今、老人の町というように変わっていったという経緯がありました。</p> <p>四條畷の場合も、高度成長期の時期には公団住宅はありませんでしたけれども、文化住宅がものすごい勢いで建ちました。あの時代には決して交通の便が良いような時代ではなかったのに、乱雑に文化住宅がいっぱい建ち始めてきました。そういった状況が</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>今になってかなり弊害となって、空き家対策も市の方でされていますけれども、文化住宅の中で一軒だけしか入居されていないというようなところが非常に多く目立つようになってまいりました。</p> <p>そのへんのところがうまい具合に、もうちょっと時代を送っていったら、良いまちづくりになるのにとということ、それから、災害に強いまちに変えることができるのではないかとということ、つくづく考えているところです。</p> <p>それと、交通の便でいうと、四條畷は第二京阪ができたおかげで非常に良くなりました。車では大阪市内、キタに行くのもミナミに行くのもほぼ30分で行けますし、京都駅まで車で行くのも30分で行けると、そういった交通の利便性も非常に高い地域にあると思います。</p> <p>しかも、利用がほとんどされていない緑、このへんの部分もあわせてみますと、やはりどこにも負けないくらいの環境にあるのかなと思っております。人口の流入・流出を見ておりましたが、12ページや13ページの部分につきましては、守口や門真は四條畷に入ってこられる方々のほうが多いという、数は少ないですけどもそういった傾向が見られます。</p> <p>守口・門真を見ておりましたが、ほとんど市街地ばかりで、しかも四條畷以上に厳しい状況の街並みのところが多くあると思っております。守口・門真についても都市開発、再開発みたいなところで今後力を入れていかれる部分もありますが、四條畷市も、財政上厳しいかもしれませんが、しっかりと災害に強くて街並みが整うようなことがあったら、決して他市に負けることがないようなまちづくりができるのではないかと考えているところです。以上です。</p> <p>非常に的確なご意見をいただいたと思います。実は昨日まで議会をしていたのですけれども、その中でも色々と意見をいただいております。四條畷を将来どういうまちにしていくのだという中で、先ほど上村副会長がおっしゃったような点も非常に大きな課題なので、長期的な課題として、それに向けて密集市街地対策につきましてもここ最近動き出したところもあります。</p> <p>財政状況も、我々が若いころはどれだけ削れるかということが課題だったのですが、かなり好転してきまして、未来に向けて投資をしていこうということが令和4年度のスローガンになって</p> |
|------------|---|

| | |
|---------|--|
| | <p>おります。これまで手付かずで街並みもあまり美しくないまちになっていたのですが、先ほどおっしゃっていただいた意見も含めまして、前向きにやっていきたいと考えております。総合戦略の中にもそういった目線で施策を入れていけたらと考えておりますので、よろしくをお願いします。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>この件に関してはよろしいですか。それではお願いします。</p> |
| 上 村 委 員 | <p>これから色々と施策を考えられて、新しく改訂される分に載せていかれると思うのですけれども、私自身、四條畷市は「住むまち」だなと常々思っています。</p> <p>大阪市内にも電車一本で行けますし、京都や奈良にも道路が整備されて行きやすくなりました。ただ、坂が多いという部分においては、高齢者の方や身体障がい者の方にとっては、買い物するのに苦労されて、というのがあるので、田原のほうで自動運転の取組みをされていますけれども、またこちらのほうの南野や岡山東といったところで、道路の整備はなかなか難しいかもしれませんけれども、検討していただければと思います。</p> <p>そういったことを踏まえたとしても、住むのには適しているのかなと思います。緑もあって、先ほどありましたけれども35歳から39歳の方が戻ってこられるというのもあり、住むのには良いと思います。</p> <p>あと、このビジョンにも色々と施策を書かれると思うのですけれども、他市の方や四條畷市の方に、どう情報を発信していくかが重要になってくるのかなと思います。</p> <p>もともとあった総合戦略全体像の中にも、SNSを積極的に使われるというのがあります。</p> <p>我々四條畷青年会議所でも色々な事業やイベントを行うにあたってSNS、facebookやインスタグラムを使ったりするのですけれども、SNSを見てもらって来てもらうというのは、なかなか難しい部分があったりします。</p> <p>それよりも、結局手渡しでチラシを撒くことのほうが来てもらえるということもあるのですけれども、そういった部分、SNSやホームページについてもしっかりと活用していただきたいです。</p> <p>また、プレスリリースをして、メディアに大きく取り上げてもらう。こういった施策は他市でも色々と考えられていると思いま</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>す。それをどうアピールするかというのもとても重要になるのかなど。例えば同じことをやったとしてもどう見せるか、見せ方によって大きく変わるのではないかと思いますので、是非ともそういった手法も盛り込んでいただけたらと思います。</p> <p>ご意見ありがとうございます。ご指摘いただきましたとおり、前回平成30年に総合戦略を改訂いたしまして、この全体像の中にご覧「四條畷市の魅力を内外に発信」、これを大変重要なものと認識しており、総合戦略に加えたという経過がございます。</p> <p>子育て家庭の支援、質の高い教育、産業への支援などさまざまなコンテンツを充実させつつ、それらを市内外に発信して、より一層多くの皆様に知っていただくということは、まさしく重要と考えておりまして、これに基づきまして、同じく平成30年に、四條畷市のシティプロモーション指針というものを策定いたしました。</p> <p>その中で、市内の方、また市外の方へどういったアプローチをしていくのか、また庁内における情報発信の体制を整えていかないといけない、一つの課だけが先行してやっていくのではなく、各課職員それぞれが、魅力を発信する、情報を発信していくという自覚を持っていただくために、庁内に情報発信リーダーというものを課に一人設けました。</p> <p>また、その中から有志を募り、情報戦略委員会という上位の組織も作りまして、どういった研修をしていくかであったり、情報のクリック率やエンゲージメント率を分析して、今後の情報発信をどうすると良いのか等々、協議を重ねてきた経過がございます。</p> <p>今後も引き続きPRは大切だと思っております。令和3年度には、個別の施策というよりもまず四條畷の認知度を上げるということで、PR大使として、アインシュタインの稲田さん、本市在住の絵本作家の谷口さんにご協力をいただきまして、さまざまな動画やSNSの発信などをやっていただいております。</p> <p>その効果もありまして、YouTubeのチャンネル登録者数がかなり伸びたりですとか、LINEやその他SNSのフォロワーも増えている状況となっておりますので、この機会に、より良い内容で本市のPRができないかということで、令和4年度も引き続き検討してまいりたいと考えております。</p> |
|------------|---|

| | |
|---------|---|
| | <p>L I N E、ツイッター、YouTube、インスタグラムがございましたので、皆様もしよろしければフォローをよろしくお願いいたします。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ありがとうございます。他に、どなたかおられますでしょうか。それでは、私から一つお聞きしたいのですけれども、第4章のめざすべき将来の方向の具体案を今後作られるということですね。どういうプロセスで、どういうメンバーで作るのですか。</p> |
| 事 務 局 | <p>一旦こちらの人口ビジョンのほうでこの方向性を決めました後、その具体的な施策につきましては、総合戦略のほうに落とし込んで今後検討していくのですけれども、同じく事務局で検討したのち、庁内の検討会がございますので、そのメンバーで意見を出し合っ、それをこの場でお諮りするという流れになっております。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>そのメンバーは、年齢の構成はどうなっているのですか。</p> |
| 事 務 局 | <p>庁内の検討会については、主に課長代理級の職員を定めていまして、年齢でいうと30代から40代くらいとなります。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>もう少し下の世代の意見を聴いた方がいいのではないかと思います。例えば中・高・大学生。若い人のほうが発想が斬新だったり面白かったりすることがあります。大人が考えるような頭の固さではないので。</p> <p>今時、リモートで全部できるので、例えば中学校や高校でリモートで時間をとってもらって、それも一つの話題性になります。うまくネットワーク活用したほうがいいので、検討していただければと思います。</p> |
| 事 務 局 | <p>ありがとうございます。庁内の検討メンバーの中に教育委員会の職員もおりますので、そのあたりも連携しながら、もう少し若年の方の生の声を聴ける機会を検討できたらと思います。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>たぶん若い人のほうが、リモートの会議や授業もオンラインでやっていて慣れているので、アイデアが出てくると思います。</p> <p>学生を相手に授業をやっている、やはり僕らが思いつかないよ</p> |

| | |
|-------------|---|
| <p>島田委員</p> | <p>うなことを時々言います。とんでもないことも言いますが、それはそれで面白いので、頭を柔らかくしていくといいのかなと思います。どうしても固くなってしまうので。よろしく願いいたします。</p> <p>他にどなたか、おられますでしょうか。お願いします。</p> <p>20代の転出が多くなっていますが、30代で戻ってきたらそれはいいのでしょうか。20代の転出が多いということは、就職する場所が四條畷にない、遊び場がないということで、転出されるかたがたぶん多いと思うのですけれども、そういった20代が就職できたり遊んだりできるような場所を作っていくというような考えも必要ではないでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>ご意見ありがとうございます。先ほども他の委員の方からご意見をいただきましたように、どうしても20代の方が就職であったり自立したところで家庭から離れて一人暮らしを、という動きというのは大きなものかなと認識しております。ただ、一旦離れたとしても、お家を買ったり家庭を構えたりされるときに、戻ってきていただいているというのが今の実情だと思うのですけれども、9ページの表をご覧くださいますと、確かに0歳から4歳、30歳代の方々はお戻りになっていただいているのですが、それを上回る、プラスがあったとしてもそれをすべて吸収してしまうほどに、やはり20歳から24歳までの方の転出の勢いが凄いものとなっています。おっしゃっていただいたように出て行っても戻ってきていただけるということも大事なのですけれども、出て行かれる方についてもなんとかアプローチをしていかないと、全体の人口としては減っていく、目標値には近づかないというところですので、先ほどご提案ありましたとおり若い方の意見も聴きながら、市としてできることがあるのかないのかも含めて今後検討を進めてまいりたいと考えております。</p> |
| <p>石関会長</p> | <p>ありがとうございます。他にどなたかございますか。</p> |
| <p>小西委員</p> | <p>質問なのですが、大東市への転入が多い代わりに大東市への転出も多いことについて何か分析されていますか。かなり大きな数の出入りがありますが、これは何なのでしょう。</p> |

| | |
|------|--|
| 事務局 | <p>そのあたりの詳細な理由の分析はまだできていない状況なのですけれども、12、13ページの、他の市町村に行っている内訳も年齢とほぼ比例しておりまして、出ていく人はやはり20から24歳が多くを占めているので、おそらく就職というところかと思います。</p> |
| 中野委員 | <p>ということは、大東市には若い人が出て行って、大東市からは年をとった方が入ってきているということですか。</p> <p>転出する方は若い人が多くて、転入する方は年齢が高い人が多い、そういう傾向でしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>本市から転出される方々の年齢層は把握できているのですが、他市から来られた方の年齢層は整理できていない状況です。大切なデータだと思いますので、今後、お示しできるような形で調べたいと思っております。</p> |
| 中野委員 | <p>四條畷市の基幹の駅は忍ヶ丘駅です。四條畷駅は大東市にあります。</p> <p>四條畷駅は快速が停まりますよね。忍ヶ丘駅は快速が停まらないのです。このハンデはとても大きいです。通勤される方のお話を聞くと、なぜ四條畷市に住まないかという、電車のためなのです。各駅停車であることで、10分、20分変わってくるわけです。</p> <p>特に夜間など、市内外から帰ってこられる方にとっては、相当便利が悪いようです。</p> <p>四條畷駅近辺もずいぶんマンションが建ち並んでおりますが、駅近になるとどうしても住所が大東市に移ることになってしまいます。四條畷市でいこうと思うと、あの近辺にはマンションなどはとても少ないです。平屋と、言われているように文化住宅が多くあります。</p> <p>そのへんがうまくバランスがとれていないから、人口が減っていくのではないかと思います。</p> |
| 事務局 | <p>おっしゃるように、四條畷駅周辺というのは我々も非常に大きな課題と捉えております。駅が大東市域にあるということで、四條畷市が手を出せない領域というのもあります。</p> <p>今回、大東市さんが四條畷駅前の開発に動かれているという中</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>で、四條畷市も指をくわえて見ているわけにはいかないですの で、駅前周辺のまちづくりについても大東市さんと共同でどうい うまちをめざすのか、J Rさんも含めまして話をしているところ です。そのへんの課題についても、今回、四條畷の大きな課題と して入れていければ、我々もどんどん動けるので、そういうこと も今回の総合戦略の中で謳っていただけたらと思います。</p> |
| 中野委員 | <p>駅の西側の四條畷市の区域は、開発された結果、自転車置き場 になっています。前は大東市と一緒にモータープールをされてい ましたが。開発の核になるような便利な場所が、死に場所になっ ているような気がします。</p> |
| 事務局 | <p>あの場所の一部、四條畷市自体が持っている土地がありますの で、大東市さんが持っている土地と、J Rが持っている土地と、 今3者で話をしています。3者が土地を持っている区域がありま す。</p> <p>今後の土地の有効活用ということも、非常に大きな課題かなと 捉えております。</p> |
| 島田委員 | <p>大東市さんの駅の周りの開発、morinekiさんですね。大東市に 転出される方が多いというのは、やはり市として開発に動いてい るということもあると思います。</p> <p>四條畷にも廃校がありますよね。そういった活用にも力を入れ ていった方がいいのではないかと思います。</p> |
| 事務局 | <p>統廃合して空いている学校というのがあるのですがけれども、今 後の市全体の公共施設、この市役所も相当古くて傷んでいますの で、市民総合センターとか、そういうところの建て替えの計画を 全体で作っているところです。その中で、廃校の跡地の利用方法 についても、今計画を作っているところです。</p> <p>それぞれ、地元住民の方の意見を聴きながらやっているところ ですので、大東市さんからは一手遅れているかもしれないですけ れども、大東市さんのような学校の跡地の活用というの、今後 明らかになってくるのではないかと思います。</p> |
| 石関会長 | <p>今のお話で思い出したのですがけれども、僕はよくタクシーを使 います。四條畷市のタクシーの運転手さんがかなり高齢で、普通</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <p>だったらタクシーはほぼ毎日あるのですけれども、昼間に2台とか3台とかしかなく、結構行列になっていて乗れなくて、ということがあります。おそらく忍ヶ丘駅も同じような状況です。</p> <p>最近どこかのタクシー会社でしょうか、乗合いもやっていますよね。そういうことを市でも積極的に推進していただきたいです。タクシーは高齢者の方の足の便にもなりますし、タクシー会社さんの利用率が高ければ運転手も派遣すると思うので。</p> <p>何とかならないかなと思っているのですけれども、いかがでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>かなり山も多いですし、坂道も多いですし、交通という視点で、四條畷公共交通会議という市全体の交通網の会議をしているところがあるのですけれども、その中でコミュニティバスの運行路線などの検討をして走らせているところです。</p> <p>駅を降りても、バス路線から外れているところへ行ったりとか、そこがちょうど坂の多いところが多いのですけれども、どうしても細かいところはタクシーさんに頼っているところもありますので、その中でタクシーさんと競合しないように、うまくバスを小さく走らせることができないかという話が従前からの課題です。</p> <p>経費との兼ね合いもあるのですけれども、なるべく細かく回れるような交通網を今整備しているところです。</p> |
| <p>石関会長</p> | <p>バスである必然性はあるのでしょうか。バスは結構な維持費がかかります。うちの大学もスクールバスを廃止した経緯があります。</p> <p>そういうことで、民間活用も考えた方がいいのではないかと思いますけれども。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>我々はデマンドタクシーという呼び方をしているのですけれども、バスのように路線は決まっているのですが、普通のタクシーの車両で、ここからここまでという形で事前に電話一本で来ていただけるようなものを今テスト中です。</p> <p>知っている人は使っているのですが、PR不足なのか全体としては使用頻度が低いというところはあります。</p> |

| | |
|---------|---|
| 石 関 会 長 | <p>色々、ご検討ください。よろしくお願いいいたします。 他に、どなたかございますでしょうか。</p> |
| 上村副会長 | <p>このコロナが2年以上続いている状況の中で、四條畷市の産業につきましても、なかなか厳しい状況が続いております。</p> <p>高齢者の方は廃業されるところが多く出てきている反面、商工会に加入されている方々は、そんなに数は減っていないという状況が続いています。</p> <p>それは何故かということを考えますと、やはりこういった状況の中で、商工会に対して助成金のことなど相談に来られたときに、商工会に入会される方も多くあるのではないかと考えているのですけれども、ここで産業に対してもう少し力を注いでいく必要があるのではないかと考えています。</p> <p>毎年四條畷市がやっているジャパンチャレンジャーアワード、12月にいつも決勝がありまして、今日お見えの島田委員もグランプリになられて、四條畷で起業されて実際に一生懸命頑張っておられるところでございます。</p> <p>先ほど石関先生がおっしゃったように、その時に参加されている方々の中に、四條畷高校、四條畷学園高校の皆さんもおられて、一緒にプレゼンをされています。それはグランプリには入るような形ではないのですが、本当にしっかりと四條畷市のことを考えて自分たちが商売をやっていくときにはこんなことをしていったらいいのではないかと考えている方も多くいます。</p> <p>それから、アワードに参加される皆さま方も、それぞれに起業のことに関して一生懸命に四條畷のことを考えながらやっている方も多くいます。</p> <p>そういったところも考えて、そういった部分とコラボなり進めていくことができれば、また少し違う展開も見えてくるのではないかなと考えた次第です。</p> |
| 中 川 委 員 | <p>人口のことに戻りますが、先ほど20歳から24歳の転出超過が著しい傾向とありました。</p> <p>私は娘が21歳と24歳で、今年1月1日から1人は東京へ行って、一人は大阪市内へ行くので人口は2人減ります。</p> <p>この点に関しては本人の就職のことなので、本人も自活していくこと、やりたいことがあるので、致し方ないと思います。</p> <p>逆に、転入の施策をどうするかというところ、例えば物価が守</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>口・門真より10%安いであるとか、土地・家屋が安いとか、そういうオンリーワンというかニッチのほうで呼んだほうがいいと思います。</p> <p>うちは商工会なので産業のほうを見させてもらっているのですが、市としてはベッドタウン、豊中とかそちらの方に向かっていてのことをお聞きしたいです。</p> <p>産業の施策には、力を入れないということはないと思いますが、いかがでしょうか。人とお金の資源には限りがあるので、子育て世代の方に注いでいくのでしょうか。産業の方にいくらか助成金を出したり、こちらにお店を出せばいくらか出すなど、そのあたりはどのような方向性なのか気になるのですけれども。</p> |
| 事務局 | <p>まず、転入をどう増やしていくかということですが、我々はこちら数年、子育て世帯を中心に、小さいお子さんがおられるところが住みやすいまちにということで、そういう意味ではベッドタウンということになるかなと思います。</p> <p>昔はお父さんが通勤するのに交通の便がいいというところで、四條畷の売りでもあったわけですが、最近は住むところを探すときに、子どもを中心に考えられることが多いというところで、教育施策、保育を含めてですけれども、力を入れようという形で進めていました。</p> <p>今後も同じように、そういうところにターゲットを絞って小さいお子さんがおられる家族に、ということで、そういう方が住まれて質の良い住宅地をめざすというところはあるのですけれども、住宅ばかりでもまちとしては成り立たないと思います。バランスが非常に大事だと思っています。</p> <p>先ほども少し触れましたが、財政状況についても、良いとはいえませんが普通のまちになりましたので、産業や防災などすべて、バランスをとれるように投資していけるのかなと考えております。ベッドタウンに偏ったまちではないのですけれども、良いベッドタウンを作るためにもバランスをとっていくというふうに考えていただけたらと思います。</p> |
| 石関会長 | <p>はい、ありがとうございます。他にどなたかございますでしょうか。</p> <p>それでは、本件についてはこれで終了させていただきます。</p> <p>今回いただいたご意見の反映につきましては、次回の会議まで</p> |

| | |
|-------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>に事務局のほうで調整していく形でよろしいでしょうか。 はい。それではよろしく願いいたします。 続いて、次第4 その他について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>それでは事務局から、今後の予定についてお伝えさせていただきます。次回協議会は4月下旬から5月上旬の開催を予定しております。</p> <p>本日ご議論いただきました人口ビジョンの内容につきまして、いただいたご意見等を踏まえた調整を行った上、お示しさせていただきますと考えております。改めまして、委員皆様に日程調整のご依頼をさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>最後に、本日の会議録につきましては、後日、事務局から案を送付させていただきますので、内容について確認いただき、指定させていただく期日までに修正点等がありましたらご連絡いただきますようお願いいたします。会議録については、市ホームページへの掲載を予定しております。</p> <p>説明は以上でございます。</p> |
| <p>石関会長</p> | <p>はい。ありがとうございます。ただいま事務局から、説明がありました但何かご質問ご意見等ございますでしょうか。</p> |
| <p>石関会長</p> | <p>3 閉会 他にはございませんか。 それではただいまをもちまして、令和3年度第1回四條畷市総合戦略協議会を閉会します。皆様ご協力ありがとうございました。</p> |